

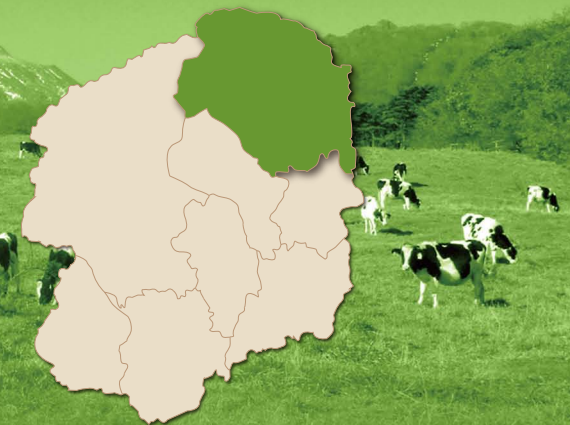
田植えを待つ薫風の田

片平地区は、片平古墳をはじめとする古墳群や、那須官衙（かんが）遺跡、那須神田城址など、多くの史跡が点在する歴史ある地域です。男の子の健やかな成長を願い、五月晴れの空の中を農家の庭先で泳ぐ鯉のぼりの姿は、悠久の歴史を刻む農村の原風景です。



県東部、那珂川の右岸に田畑が広がる那珂川町片平。この地区には親鸞聖人ゆかりのお寺、常円寺があり、御本尊の阿弥陀如来立像をはじめ、聖徳太子絵伝、過去帳、経石、時鐘、また那須与一公の位牌など多くの文化財が残されています。

那須地域



- 大田原市
- 83 佐久山
- 84 親園
- 85 富池・練貫
- 86 福原
- 87 湯津上
- 88 寺宿

- 那須塩原市
- 89 西岩崎
- 90 石林
- 91 三区町
- 92 接骨木

- 那須町
- 93 芦野
- 94 大島
- 95 高久
- 96 袁沢

とちぎの田園ふるさと風景百選

83 佐久山

さくやま



水をめぐる人の輪

佐久山地区には歴史的な施設「円筒分水」があります。箒川から取り入れた水を各地域に均等に配分するこの施設は、農業用水の争奪を収める重要な役割を担ってきました。



語らい

田園地帯の静かな小高い丘の上で、農家の方が農作業の合間にひとやすみをしていました。ほのぼのとした心温まる風景です。

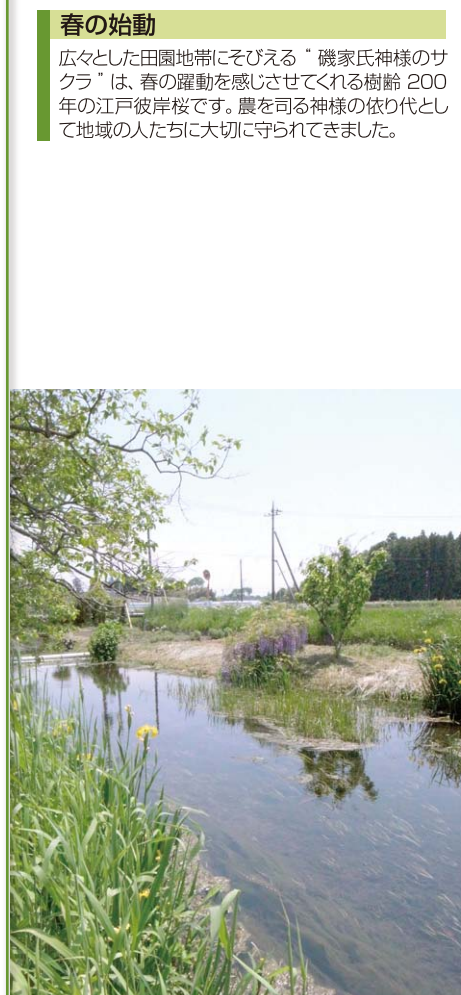
県北部、大田原市の南部に位置する佐久山。箒川沿岸に開けた水田地帯と南西部の丘陵地からなり、かつては奥州街道21番目の宿場町として「花の咲く山」と言われるほどのにぎわいを見せました。この地区には樹齢800年の県指定天然記念物「佐久山のケヤキ」が大きな枝を上げており、地元では葉の茂り方を見て、その年の収穫豊凶を占っています。



84 親園

ちかその

とちぎの田園ふるさと風景百選



春の始動

広々とした田園地帯にそびえる「磯家氏神様のサクラ」は、春の躍動を感じさせてくれる樹齢200年の江戸彼岸桜です。農を司る神様の依り代として地域の人たちに大切に守られてきました。



イトヨのふるさと

親園地区には希少種の淡水魚イトヨの生息地が残されています。夏でも水温が20度以上にならない湧水域の環境を保全するため、様々な地域活動が行われています。



県北部、那須野が原の南端に位置する大田原市親園。西に箒川、東に蛇尾川が合流する扇状地帯にあり、一面に広がる水田地帯の中をライスライン（大田原広域農道）が走っています。かつては、奥州街道の間宿「八木沢宿」が置かれた地区で、旧街道添いには市指定史跡「町初碑」が残されています。



とみいけ・ねりぬき



湧水池「池の御前」

富池地区の田園地帯には、多くの動植物が生育する湧水池「池の御前」があり、地元の小学生による生態系調査や観察会が実施されています。



樹齢 200 年の榎

練貫地区では、平成 11 年から 18 年にかけて土地改良事業が行われましたが、地域のシンボルとして樹齢 200 年の巨木練貫の工ノキが保全され、積極的な保存活動が行われています。



県北部、JR 那須塩原駅からおよそ 5 km にある大田原市 富池と練貫。那須野が原のほぼ中央に位置し、相の川兩岸の扇状地に広がる水田地帯は豊かな水に恵まれ、県内有数の米どころとなっています。近年行われた土地改良事業を契機に「那須の白美人ねぎ」や「那須の春香ウド」「那須の美なす」など那須ブランド野菜への取り組みが進められています。

ふくわら



福原の餅つき唄

「福原餅つき唄」は平安時代の末期、那須与一と兄の十郎が平家追討の旅に立つとき、その出陣を祝って、福原の大勢の領民が激励の力もちをついて献上したのが始まりと伝えられています。現在は福原玄性寺において、那須家の供養に餅つき唄が奉納されています。



県北部、大田原市の南に位置する福原。蛇尾川が注ぎ込んだ箒川が地区の北側を流れ、その沿岸に水田地帯が広がっています。この地区には、那須与一で知られる那須氏の菩提寺「玄性寺」があり、那須一族の供養塔や、かつて与一が八島で扇的を射抜いた時に亀裂が走ったとされる巨石「矢剪石」が置かれています。



侍塚古墳と田園

湯津上地区は古墳群の宝庫と呼ばれる歴史ある地域です。広々とした田園の中に浮かぶ下侍塚古墳は、かつて水戸光圀が墳丘保護の目的で植えた松の木が古墳を覆うように青々と茂り、美しい姿を見せています。



県北東部、那珂川右岸の河岸段丘上にある大田原市湯津上。地域を南北に縦断する国道 294 号線沿いには緑豊かな水田地帯が広がっています。かつてなすのくにのみやつこ那須国造が統治していたこの地域には、日本三古碑の一つ 国宝「那須国造碑」をはじめ、当時の華やかな古代文化をしのばせる貴重な遺跡や多くの古墳が残されています。



寺のしだれ桜と里山の風景

寺宿地区の光厳寺に咲くしだれ桜は、素朴で静かな里山に美しい彩りを添えます。

家族で田植え

田植えのシーズンを迎えると、青空のもと一家総出の作業があちこちで始まります。いにしえの時代から、こうした稲作を通して家族の絆が育まれてきました。



県北東部に位置する大田原市 寺宿。山あいを流れる前松葉川沿いの沢地には、水田が帯状に連なっています。地区西部の丘陵にある那須家ゆかりの光厳寺には、市指定有形文化財「三鏝銘鐘」や市指定史跡「高増墓地」など歴史ある多くの文化財が残されています。



那須疎水 新旧取水口

西岩崎地区には、日本三大疎水の一つに数えられる那須疎水の取入口「西岩崎頭首工」があります。この取入口は、これまで大きく4回改築されており、使命を果たした古い門扉や水路トンネルなどが、昔のままの姿で保存されています。

みどり

木々の芽吹きは萌黄色、水田にそよぐ稲の若苗色、清流那珂川の深みある翡翠（ひすい）色が織り成す風景は、生き生きとした春の鼓動を感じさせてくれます。



県北部、那珂川の上流に位置する那須塩原市 西岩崎。地区北部を流れる那珂川に造られた西岩崎頭首工から那須疎水が取り入れられています。明治時代に築かれた水門・導水路などの旧取水施設は、平成18年に貴重な土木遺産として国の重要文化財に指定されました。取水口近くの河川敷には那須疎水公園が整備され、夏の人気スポットとなっています。

乃木神社と臺沼用水

臺沼（ひきぬま）用水は、蛇尾川から取水し大田原市に至る全長約20kmの用水路で、那須野ヶ原に引かれた最古の用水といわれています。乃木神社は乃木希典將軍夫妻を祭った神社で、境内を流れる臺沼用水とともに先人からの遺産として多くの人々に慕い愛され続けています。



県北部、那須野ヶ原のほぼ中央に位置する那須塩原市 石林。昔から水に恵まれた地域で、今もなお豊かな水田地帯が広がっています。乃木神社境内とその周辺の公園には、乃木家水田跡を憩いの池とした「静沼」や市指定天然記念物ノギカワモズクが生育する「乃木清水」、昔からの自然の姿を残す平地林「乃木神社の樹林」があり、往時の様子をしのばせています。



稲刈り



環境にやさしい  
合鴨水田の見学



ふゆみずたんぼに白鳥初飛来

那須疏水でそば粉を挽く水車

三区町地区は那須疏水の豊かな水に恵まれた緑あふれる郷で、地域ぐるみによる農村環境の保全活動が取り組まれています。平成10年から合鴨農法に取り組み始め、8年には有機農業も行われるようになりました。最近では水田の冬期湛水「ふゆみずたんぼ」によって白鳥が飛来するようになり、周辺の住民を楽しませています。

県北部、那須野が原の南西に位置する那須塩原市三区町。地区中央をライズラインが通る田園地帯には那須疏水の豊かな水がとうとう流れ、農地を潤しています。地区東部には、貴重な自然を残す那須野が原開拓ゆかりの「烏ヶ森の丘」があり、市民の憩いの場として親しまれています。



臺沼用水と藤の花

江戸時代初期に開削され今も流れ続ける臺沼用水。かつては飲用水として利用されていましたが現在では農業用水として地域の農地を潤しています。先人たちの苦勞と偉業を後世に伝えるべく、接骨木地区の人々はこの美しい水路景観を保全してきました。

県北部、那須野が原の東部に位置する那須塩原市接骨木。この地域には、かつて「接骨木堀」と呼ばれた臺沼用水が流れ、集落と農地に清らかな水の恵みをもたらしています。用水が流れる接骨木街道沿いには、常夜灯や石仏など多くの石造物や一里塚が残っており、昔の面影を感じることができます。



遊行柳の里

芦野地区には、歌枕の地であり松尾芭蕉ゆかりの地でもある「遊行柳」があり、古来から多くの人たちが訪れています。



田植え祭り

毎年6月、芭蕉が芦野を訪れた時期にあわせて「田植え祭り」が行われ、農耕馬による代掻きや早乙女たちによる田植えが行われます。



大ケ谷の棚田

芦野地区にある「大ケ谷の棚田」は、38枚の水田、1.3ヘクタールから成る棚田です。1株ずつ丁寧に刈り取られた稲のはぜかけは、昔懐かしい里山の風景を映し出しています。



県北東部、八溝山地の麓に位置する那須町 芦野。かつて奥州街道の宿駅「芦野宿」としてにぎわい、みちのくへと旅した多くの文人たちが訪れた地として知られています。城下町だったこの地区は、武家屋敷の門構えや古い町並みを今に残しており、数多くの史跡や文化財は観光の名所となっています。



那須町共同利用模範牧場

大島地区にある那須町共同利用模範牧場は、那須連山の東南斜面、標高600～1,000mに広がる大自然の中の牧場です。関東平野を一望できる約330ヘクタールの広大な敷地の中で、牛がのんびりとすごしています。



県北東部、那須町の北に位置する大島。余笹川の東岸に開けた農村集落と標高500mほどの丘陵が連なる開拓地からなる自然豊かな地域です。北部の丘陵地は、強風や霜に悩まされる厳しい土地でしたが、戦後の開拓事業により酪農が営まれるようになりました。この地区にある中大倉尾根一帯は、約3万株が自生する国内最大のゴヨウツツジの群落となっています。

芽吹きの色

新緑の季節は、那須のすそ野を見渡せるこの地から、芽吹きが山を登りゆく風景が楽しめます。芽吹き前の木々は赤みを帯びて山一帯が赤く染まりますが、次第に草や木の芽の緑の濃淡が広がり、素敵なグラデーションが創り出されます。



県北東部、那須火山東麓の高久丘陵にある那須町高久。“那須高原”として全国的にも有名な観光地となっています。地区内を通る那須街道沿いには、ヤマメやホタルがすむ那須用水が流れ、沿線にある水田を潤しています。また約1万4千本もの天然アカマツが広がる「那須街道赤松林」には遊歩道が整備され、森林浴や自然観察に親しむことができます。

蓑沢の彼岸花

蓑沢地区には、山に囲まれたのどかな田園の中に約5万本の彼岸花が咲く“蓑沢彼岸花公園”があります。彼岸花の群生地は、地域住民とボランティアによる保全活動が行われており、9月には彼岸花祭りも開催されます。棚田の畦に咲き誇る真っ赤な花々は訪れる人を魅了します。



県北東部、八溝山地の山あいにある那須町蓑沢。地区の北側は福島県との県境に接しています。この地区の集落は、かつて源義経が鎌倉へ向かったと伝えられる古道「東山道」沿いにあり、付近には義経が戦勝祈願をしたといわれる蓑沢温泉神社「滝の宮」など、ゆかりの史跡が数多く残っています。